



小さな拠点「里山キャンパス益子家」 プロジェクト

2025年度最終報告

2026.02.06

宇都宮大学農学部農業経済学科 西山研究室
阿部亮介、菊地泉希、藤島空哉、角田鞠乃、草野史織、高橋真彩

1. 2025年度の活動内容

活動内容/時期	7月	8月	9月	新たにやったこと これからの予定	10月	11月	12月	1月	2月
米作り ・みんなで田んぼ ・自分で田んぼ ・地域で田んぼ	稻刈り			①米作り ・みんなで田んぼ ・自分で田んぼ ・地域で田んぼ	脱穀、収穫、耕耘、精米・発送作業				
地域食堂 ・地域を知るWS	生き物 観察会			②地域食堂 ・地域を知るWS	大平散歩 (赤道 マップ)	地域問題 を専門家 に学ぶ	地域の名 人にそば打 ちを習う	大平の 混ぜご 飯づくり	ピザ窯 でピザ づくり
山 ・環境整備 ・小屋制作				③山 ・環境整備 ・小屋制作					
				④その他 ・イベント出店 ・益子家での イベント開催		森と里のつな がるマルシェ			ピザ窯 づくり

1 – ①

3つの「○○○で田んぼ」

益子家前の耕作放棄地を利用し、無農薬・無肥料の自然栽培米を作る。



みんなで田んぼ

棚田オーナー制を導入
東京・埼玉・町内の3組のオーナーが無農薬・無肥料の米作りにチャレンジ。



自分で田んぼ

大平地区の専業農家と協業して、無農薬米を栽培。機械作業は農家、手作業は益子家+地域住民で分担



地域で田んぼ

若い手の高齢化で耕作放棄された田んぼを借りりうけ、
地域内外の人に作業に加わってもらう仕組みを作ることで、
関係人口の増加を狙っている

1 – ② 米作りの進捗



11月15日

放送大学の受講生とともに脱穀作業を実施

12月上旬

収穫した米の
もみすり作業

12月下旬

耕耘作業

2. 地域食堂 + 地域を知るWS

地域食堂の位置づけを見直し、地域の食を囲みながら“資源や人をよく知る”ワークショップの機会に

- **大平散歩** (10月25日)

以前あった店や作業道の赤道（あかみち）など地域の資源について地域の方に伺いながら散歩し、地図にまとめる

- **そば打ち体験** (12月20日)

地域の名人にそば打ちを習う

- **大平の混ぜご飯作り** (1月24日)

大平地区で食べられていた混ぜご飯を地域食堂で再現



3. 山の利用

・環境整備（草刈り、枯木の伐採など）

ほぼ、毎月1回のペースで、草刈りなどを実施
ボランティアを募っての作業も昨年に引き続き
実施予定



・小屋の制作の再開

交流人口との交流の拠点としての小屋の制作
の再開 今年度中にはある程度完成する予定



4. 森と里のつながるマルシェ @ 茂木町

森と里、つまり生産者と消費者が直接つながるマルシェに参加

・サポーターとして

運営や他の出店者さんの手伝いを行う
同じ思いを持った方々と交流する機会に

・出店者として

お米、Tシャツの販売、綿繰りのワークショップ
益子家の活動の意義を知ってもらう機会に



5. “藻谷浩介さんと宇大生 農村の未来を語る会2025”

ゼミのテキスト「里山資本主義」の著者の藻谷浩介さんにお越しいただき、農村の未来についてディスカッションする機会を得た。

「農村の資源と里山資本主義」 「2050年の農村とそこへの道筋」

という2つのテーマで藻谷さんと学生が語り合った。

益子家にある資源について改めて考えたり、
大平地区を事例に未来を具体的に想像したりすることで、メンバーそれぞれが自分事として農村問題、未来の社会のあり方を深める機会になった。



6. 益子家の目指す姿

農村の持続可能性をテーマとし、益子町大平地区の益子家を拠点に**アクションリサーチ**を実践。研究の蓄積から、農村資源の価値の発見や地域課題解決の糸口を見出す。

